

選挙カーから連呼、街頭演説



塾や自宅で最後の追い込み

立入試は1月から全国各地で始まり、2月から本格化。東京都内では2月1日から中学受験が行われる。北区の個別指導塾「渡辺塾」では、受験を目前に控えた多くの小中高生が勉強に励む。渡辺浩塾長(54)は「子どもは何年間もかけて準備してきた。なぜ今なぜ準備してきた。なぜ今なぜ」と戸惑いを隠さない。

小学6年の女子児童(12)は「鉛筆が落ちる音でも気が散ることがあるから心配」と不安げな表情を見せ、都立高3年の男子生徒(17)は「本命の受験日と重なる。せめて試験時間中は静かにしてもらおう」と訴えた。

公選法は学校周辺などで受験に向かって指導を受ける小学6年生ら20日、東京都北区

入試シーズン真っただ中に行われる衆院選で、受験生からは選挙活動での配慮を求める声が上がっている。自宅や塾で最後の追い込みをかける時期であり、入試当日の学校周辺だけでなく、駅前や住宅街での街頭演説や選挙カーからの連呼が「迷惑行為」となりかねない。期間中には社会福祉士や医師の国家試験もあり、「極力静かにする」と街頭活動を控える陣営も出ている。

入試直撃 受験生に配慮を



衆院選用の投票用紙などを運ぶ新潟市東区の選管職員=23日、新潟市東区

県選管、投票用紙を発送

27日公示、2月8日投開票の衆院選に向け、県選管委員会は23日、県内の各市町村の選管へ投票用紙などを発送した。

県選管によると、発送したのは小選挙区と比例代表など、投票用紙計約377万枚と不在者投票用の封筒など計15万枚。最高裁判所裁判官国民審査の投票用紙は後日発送する。

新潟市東区役所では午前10時前にトラックが到着した。区の担当者は投票用紙などが入った段ボール21箱を次々と庁舎に運んだ。県選管の担当者は「冬の選挙で足元が悪いが、期日前投票を活用するなどしてほしい」とした。